探索範囲北部

１２班

Ⅰ ビニールハウス

8棟の巨大なビニールハウス。トマト、キュウリ、ズッキーニが栽培されている。ビニールハウスの周りには建物が一切建っていなかった。都農町では33軒のトマト農家が出荷をしているそうだ。都農町は尾鈴山系の水と日向灘からの潮風、暖かな気候に恵まれており、日照時間も長いため栽培に最適な環境である。

Ⅻ 鯉のぼり

探索を行ったのは5月20日だが空き地で非常に大きな鯉のぼりがあった。海の近くで風が強かったため、鯉が泳いでる様子をきれいに見ることができた。

Ⅷ ソーラーパネル

敷地が多くあるため電力発電のためのソーラーパネルがおかれていた。また、町内の多くがソーラーパネル付きの街灯になってエコ化が進んでいる。

Ⅶ 円通寺

宗派は、臨済宗妙心寺派である。少し入り組んだところにあるために少し入りにくいお寺だった。そこまで活気のあるものでなく参拝客が訪れている様子はなかったが管理は行き届いた近所のお寺といったところのようだ。

Ⅱ 海抜表示板

この海抜表示板は都農町の至る所に建てられていた。海からどれくらい高いのかが示されている。また、津波が襲来する可能性があることがわかる。そして、避難所・安全な場所までの誘導がされている。

Ⅵ ねこ神様

この神社は喉に魚の骨が引っ掛かった際にお参りをすると猫が魚の骨を取ってくれるという言い伝えがある。聞き取り調査を行った方が代々管理を行ってきたそうだ。地元の参拝客は多いが、猫の姿は一匹も見られなかった。

Ⅲ 避難経路

民家の間を縫うように作られているスロープ式の避難経路である。少し斜面が厳しめで約１０度ほどあるが、最短で避難所に逃げる際はこの道を利用する。管理も行き届いており問題はなさそうだ。もともとは私有地であった土地を避難経路用に改修工事を行った。

Ⅴ 龍雲寺

下浜地区の住宅街にある。妙福山 龍雲寺では、盛運祈願祭を行ったり、日蓮宗に伝わる秘法霊断法による病気・仕事・家庭・縁談・受験・子供の問題や家相・命名・人事百般などの人生相談を行ったりしている。地元の中学生も訪れることが多いそうだ。前の道路はスピードを出した車の通りが多く交通に注意が必要。

Ⅳ 水神様

他にも至る所で確認できた。私有地内に設置されている住宅も見られた。漁村地域のため海神が祀られているかと思うが総称して水神様を祭っている。明田地区に田畑が広がっているため下浜地区の住民のなかには農耕を行っている住民がいるのではないかと考え、水田の水路または生活用水路を引いているのため水神様として祀られているのではないかと思われる。

Ⅹ 猪股時計メガネ店

眼鏡店でありながら、時計のベルト・電池交換、耳の補聴器・ゴム印販売も行っており、地域の「何でも屋」としての役割を果たしている。

Ⅸ 福原尾営農研修館・避難所

海抜16mの地点にあるこの地域一番の避難所。避難訓練の際には、漁港周辺に住んでいる住人も避難経路を通ってこの場所に集まる。

Ⅺ 去飛の駅井戸

この井戸は約1,000年前に日向十六駅の一つとして都農町に去飛の駅が設けられた際、往来する人馬のために供せられたものであると伝えられている。それ以来、地域の人々の生活用水として親しまれている。

探索範囲南部

Ⅰ みなと児童館

入り口の青緑色のポストが特徴的だ。児童館には広い運動場があり、走り回ったりボール遊びをしたりするのも可能だ。滑り台や鉄棒などの遊具もいくつかあった。児童館は道路沿いにあるため速度注意の幟が建てられており、児童館の入り口近くは駐車禁止ゾーンになっていた。正午を超えると小学生が数名遊んでいた。海抜は３メートルとなっているため津波には十分注意する必要がある。

Ⅱ 居酒屋かもめ

ひなた飲食店認証のステッカーがはられていた。
ひなた食事券が使えるため地域外の人も気軽に利用できそうだ。しかし営業時間や休業日が確認できず情報は得られなかった。

Ⅲ 白井株式T

調べた結果、魚介卸売業の企業のようであったが、入り口前に装飾用である花の苗がたくさん置いてあった。恐らく多岐にわたる仕事に手を出した企業なのだと思う。

Ⅳ 消防団

下浜地区の農業協同組合の前に位置する。建物の前は幅が広い交差点になっており消防車の出入りがしやすい。都農駅より東側には消防団の施設はここしか確認できなかった。

Ⅴ 飼料保管施設

都農漁港前に設置されている。種子島周辺の漁業対策用に建設された施設のようだ。内部がどのようになっているか見ることはできなかったが、稼働しているような様子は感じられなかった。

Ⅵ 都農漁港

船が十隻程度停まっていた。サーフィンに訪れている方が何名も見られた。宮崎県が誇るフグ「宮崎金フグ」が水揚げされる。防波堤は危険防止のため立ち入りが禁止されていた。

Ⅶ 都農町漁業協同組合

一本釣り、延縄、縄を中心とした漁業が盛んであり、ふぐ、はも、まだいを中心として年間２億５０００万円ほどの水揚げがおこなわれている。かつては旧都農高校にてかつおを使った料理講習会を開催するといった活動があったそうだ。

Ⅷ 都農ポートランド

潮干狩りをしている家族が数名いた。学校帰りの子供たちも潮干狩りに訪れていた。隆起岸になっているエリアが広く波も穏やかだったので潮干狩りにはうってつけだ。小学生に下浜地区で遊ぶ場所を尋ねたが、都農駅より西側にある公園で遊ぶことが多いらしく、下浜地区には小学生が遊べる場所はほとんどないことが分かった。

Ⅸ ぶどう畑

南には広大な田畑が広がっており、トマトやイチゴ、キュウリ、トウモロコシが多く栽培されていた。一カ所のみぶどうが栽培されており、海に近いため潮風による品種への被害は起きていないのか疑問だ。

α 空き家

隣接しているものや住宅エリアに突然ひっそりと存在するものもあった。２棟並んだ空き家も見られた。
入り組んだ住宅街や隣との距離が短く、取り壊し工事の重機は入ることができない。建築基準法により建て替えができず、再利用することが難しい。空き家がそのまま放置されてしまっていることで、避難経路が遠回りになってしまっているのではないかと懸念される。

Ⅹ 一政商店

商店になっており少量の駄菓子類やジュースが販売されている。道路に面しており隣の建物では落花生が栽培、もしくは販売されていると思われる。地域の子供たちが利用するのだろう。店内に店主は不在で、用がある際には入り口に表記されている電話番号に連絡する必要がある。

都農発見スポット

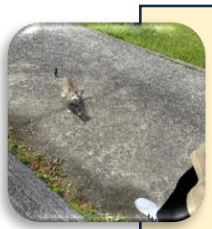
こども110番の家

Ⅰ ミラー

我々が歩いているときに見つけたミラー。見た目が通常のミラーと色合いが異なっていて特別感がありつつも街並みになじむような色合いであった。うまくタイミングが合えば夕日と海への道が重なっておしゃれな写真が撮れて、写真映えスポットになるかもしれない。
ただ設置された理由は、ミラーの近隣が空き家であること、海風を防いだりする林の管理が行き届いておらず生い茂っていること、坂があることなどの理由で見通しが悪いため設置されたもののようであった。言わばある意味人口減少などを原因とする小さな負の遺産でもある。空き家問題が解決すれば、なくなるだろう。

Ⅱ 海への坂道

舗装されたばかりの幅が広い道である。海、空、草木の緑すべてが揃った道であった。夕方は赤に染まった景色を見ることができ、ちょっとした写真映えスポットである。この道路の本来の役割としては漁港までの輸送ルートとしての利用や、避難経路として利用されることを目的としているのか、ほぼ直線の道になっている。しかし、この道は空き家が多いなどで道を新しく作るのも難しく、無理やり切り開いた通路であるようにも考えられる。



Ⅲ 都農ポートランド（広場側）

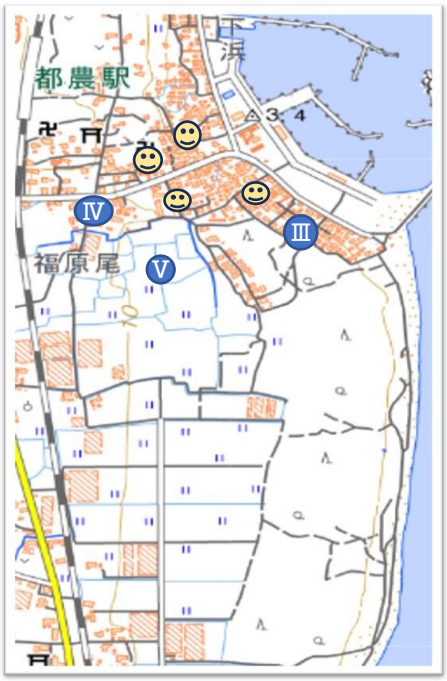
日向灘に面した広場で、屋根付きのベンチがあり日差しを避けることができる。草原は丈が短かったため、住民が担当して草刈りを行っているのではないかと考えた。猫が多く集まる場所であるため、猫への餌やり禁止の表記があったが、住民の方は餌を与えていた。人口が少なく、機関の管理が行き届かなかった結果だろう。また、潮干狩りをする小学生はいたがポートランドの広場で遊ぶ小学生はおらず、加えて道路沿いにあるため車通りが少ないとはいえボールを使って遊ぶのは難しいと考えられる。波音を聞きながらのんびりとした時間を過ごせる場所だが、日差しが強いため夏には熱中症の注意が必要だ。

Ⅳ 県指定都農古墳第20号

住宅街に突如として木が生い茂った静かな一角が現れた。住民の方から訪れた方が良いと勧められた古墳である。湯呑がいくつもお供えされており地域でも大切に管理されていることがわかる。古墳記念碑の近くまで近寄ることができ、木々が生い茂っているため日光が一切差し込まず、非常に涼しい場所であった。

Ⅴ 映画のワンシーンのような秘密の抜け道

住宅街の中に突如として現れる並木道である。小鳥のさえずりが聞こえ木の葉がわずかに揺れる並木道を通っていくと畑に繋がる。街灯が一切ないため夜間には注意が必要だが、木々の間からの木漏れ日が神秘的な写真映えスポットである。これを資源の一つに生かせないだろうか。しかし、これらの知られていない資源を発信する人があまりいないことも課題である。関わりの強い我々が発信していくべきだと感じた。



感想

調査を行った都農駅より東の明田・福原尾地区にはお店はほとんどなく、下浜地区まで下りていくと商店が数軒見られた。だが、その中で営業中と確認できたのは1店舗のみだった。買い物をする際は、都農駅より西に行くしかない状況である。明田地区では、徒歩でも買い物は可能であるが、下浜地区から買い物に向かうには、津波の避難経路にもなっている長い階段を利用するか、長く傾斜がある坂道を登っていくしか方法がないため、車を利用しなければ買い物は難しいのではないかと感じた。免許証を返納した高齢者はどのように日用品や食料の調達を行っているのかは、残念ながら今回の探索では話を伺うことは叶わなかった。さらに、通り沿いには空き家の数が多い上に、下浜地区では家同士が密接して隣り合っていて、道路が狭くなっていることで重機が通れず、家の取り壊し工事ができない状況が見受けられた。加えて、取り壊したい空き家が再建築不可能な土地に該当する場合、既に存在する空き家を取り壊したとしてもその土地に新たに住宅を建築することができない。そのため、住宅を建築できる状況にするには、建築基準法で住宅を建てられることのできる隣接した土地の所有者などに土地を売買する相手が限られるので、取り壊しづらいという状況がある。仮に、リフォームしようとしても空き家として放置されていた家だと梁などが痛んでいる可能性があり、リフォームの条件を満たせなくなり得ることがある。また、空き家を取り壊して更地にすると、固定資産税の特例がなくなることで支払う税金が増えてしまう場合があるため、そのままの状態で放置され続けるというケースもある。

海沿いのエリアでは、ハマダイコンとヒルザキツキミソウと思われる植物が地区のいたるところに咲いていた。

今回の実習でこの地域で危険だと感じたことが２つある。１つは、車通りは少なくても細い車道でスピードを出して運転している人がいたことだ。特に、龍雲寺の前の通りは他の通りに比べて車通りが多く、スピードが出ている車が多いと感じた。２つ目は、木が生えているエリアがほとんどなく、散歩をしたり作業をしたりする時に木陰で休めないため熱中症になるリスクがあると感じた。実際、探索をしている時もずっと直射日光に当たっており、体調を崩しかねないと感じていた。他にも、今回担当したエリアには、小中学生が遊べるような場所がほとんどないという印象を受けた。また、町内のほとんどの電灯にソーラーパネルが設置されており、太陽光発電を利用して町内で自給自足の発電を行っていた。

今回の実習では、実習日が土曜日だったにも関わらず、地域外に働きに出ている住民が多かったためか、数名の住民としか出会うことができなかった。このことから、この地域に住む多くの住民は仕事のために他地域へ出て行っていると考察した。

最後に、フィールドワークで都農町を訪れる前にインターネットで調べた際には、飲食店や食料品店が全く検索結果に表示されなかった。そのため、森林が広がる衰退した港町というイメージを班員の共通認識として持っていた。しかし実際に探索してみると、住宅が広がる農山漁村集落であった。特に、明田地区から漁村を望む景色やポートランドにて日向灘の波の音を聞きながら過ごす時間は心を穏やかにしてくれ、さらに、後ろを振り向くと目の前に尾鈴山が見えるというまさに一石二鳥の風景であった。